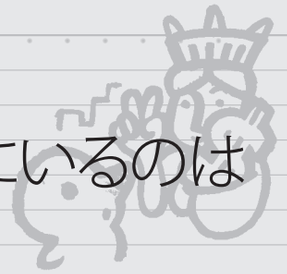
3-1
為替取引の中心にいるのはアメリカの通貨



外国為替市場ではドルありき

世界最大の経済大国アメリカ。外国為替市場でもアメリカは世界の中心となっています。世界中の為替取引の中で米ドルが占める割合は、2010年にBIS（国際決済銀行）が調べたところによると、実に全取引の84.9％にのぼり、ユーロの39.1％、円の19.0％など他の主要通貨と比べても圧倒的なシェアを誇っています（ちなみに、1回の取引でドル円、ユーロドルといったように二つの通貨がカウントされますので、合計は200％です）。

圧倒的な存在感の米ドル

通貨別取引シェア　上位5位

米ドル	ユーロ	日本円	英ポンド	豪ドル
84.9%	39.1%	19.0%	12.9%	7.6%

出所：BIS（国際決済銀行）Triennial Central Bank Survey Foreign exchange and derivatives market activity in April 2010

日本で為替取引をする場合、ドル円以外では、ユーロ円や豪ドル円といった具合に円が絡んだ取引が一般的ですが、世界の為替市場では、ドルが中心となっているのです。

通貨ペアの中でいろいろな呼び方がある

外国為替取引とは、ドルと円、ユーロとドルといった具合に、異なる通貨と通貨を交換することですが、この交換される二つの通貨を通貨ペアと呼びます。

世界の外国為替市場で米ドルのシェアが圧倒的ということは、ユーロドル、豪ドルドル、ドル南アフリカランドなど、ドルともう一つの通貨の組み合わせによる通貨ペアが、市場における取引のほとんどを占めるということを意味します。こうしたドル絡みの通貨ペアをドルストレートと呼びます。

一方、日本での外国為替取引は、ドル円に加え、ユーロ円、豪ドル円など、円ともう一つの通貨の組み合わせによる通貨ペアの取引が一般的です。これは、FXのように、どの通貨ペアでも、売り買いどちらからでも同じように取引が可能な金融商品を例外として、それ以外の大半の外国為替取引が、手持ちの円を外貨に換える、海外で取得した外貨を円に換えるという目的で行われるためです。こうした円絡みの通貨ペアを、ドル円を除いてクロス円と呼びます。

同じように、ユーロポンド、ユーロスイスといった具合に、ユーロドル以外のユーロ絡みの取引をユーロクロスと呼びます。

76-77
11.2.14 2:03:38 PM